

中川流域防災事業について

降雨確率規模といたしまして、

暫定計画1/5, 45mm/h

将来計画1/10, 54mm/h

例といたしまして

45mm/hの降雨の場合、中川に流れ込み集まる水量は、

中流部(51号から京成)で約40m³/s

下流部(中央低地排水路近く)で約43m³/s

中川の中流域の流下能力は16から26m³/s、下流部19から35m³/sであることから調節池の設置、河道改修、貯留浸透施設の設置により流量配分計画をたて、流域全体で治水対策に取り組むこととしております。

京成下を先に施工したらどうなのか。

京成橋梁の拡幅工事について

京成橋梁の拡幅工事には、次のような問題が生じます。

1. 京成橋梁を改修計画どおり拡幅しますと、下流域の河川断面が不足しており、また、横断する県道宗吾酒々井線が堤防状になるため、直下流および下流域で溢水が生じます。そのため、洪水の連鎖を防ぐためには、京成橋梁の拡幅工事を施工する前に河川の最下流から順に改修する必要が生じます。
2. 最下流からの改修を実施しますと莫大な事業費と長期的な工期が必要となります。

1)河川改修及び橋梁の拡幅工事の手順

- | | |
|--------|--------------|
| イ)河川改修 | ロ)橋梁工事 |
| ・用地買収 | ・道路管理者との施工協議 |
| ・改修工事 | ・改築工事 |

ハ)京成橋梁の拡幅工事の手順

- ・京成電鉄との施工協議
- ・仮設道路用地の確保(資材及び建設機械等の搬入)
- ・施工ヤードの確保(家屋移転等を含む。)
- ・歩行者及び車輛等の交通路の確保(仮橋等)
- ・改修工事(町道橋2橋を含む)

3. 以上のことから治水対策における即効性には乏しいです。

京成橋梁上流部における緊急対策工(嵩上げ工)について

近年における異常気象に伴う大雨、中川上流域での開発に伴う流出量の増大、及び、現況河道断面の不足等から上岩橋並びに中川地先において、しばしば溢水が生じております。特に平成16年9月の大雨では時間最大降雨量77mm、連続降雨量186mmを記録し、同地先においては、床上浸水18戸、床下浸水40戸と甚大な浸水被害を受け地域住民の皆様の生活に大きな影響をおよぼしました。

以上のことから町といたしましては大雨が降るたびに苦慮されている地域住民の皆様を水害から守るため緊急対策工として護岸嵩上げ工を実施することと致しました。

嵩上げ工を施した後の上流部への影響ですが、上流部における河川の流下能力以上の洪水が来たときには今までと同様にその上流域で溢水が生じるため流下能力以上の洪水は嵩上げ工を施した箇所には到達いたしませんので、嵩上げ工による上流部の影響はほとんど無いものと思われまます。

また、中川に接続する排水口には、水位上昇による逆流防止を防ぐためのフラップゲートの設置、及び、溢水等による内水を処理するための排水ポンプを、中川地先に1基設置致します。

* 今年度事業として既に発注済

中川調節池築造について

中川の溢水の原因につきましては、前段の緊急対策工に記したとおりです。

また、中川の中流域は既成市街地を貫流していることから河川の拡幅だけの改修には無理が生じます。

このようなことから、中川の治水対策は流域全体で捉え、河道分担量及び流域分担量をそれぞれ定めた改修計画としております。

第1回目の委員会で説明したとおり、調節池の位置付けにつきましては河道拡幅の負担を抑えるための洪水調節機能を有した施設です。

1. 調節池を築造する手順

- ・用地買収
- ・築造工事

2. 掘削工事を開始した同時期から洪水調節機能が有効となり、治水効果における即効性に優れています。

※ よって、中川の治水効果を早急に発揮させるためには、緊急対策工と平行に調節池を施工することが、最も優位と考えられます。